

講演「最新相場予測(02年・春)」

オオタケ・ウリツァ&CO 社長 大竹 慎一 氏(02-3)

1984年から17年間、米国年金ファンドの日本株部門でトップクォーター(成績上位4分の1)を誇り、「99年末のIT急騰」「2000年春の暴落」「日本株の1万円割れ」等を数年前より予測。常に長期“買いポジション”で利益を上げ続ける、ウォール街随一の日本人ファンド・マネージャーとして注目されている大竹氏の講演です。「エンロン破綻」も関係なかったそうです。

- * 毎年正月の日経に「大企業社長が注目する有望銘柄ベスト10」が掲載される。が、当たるのは10回に1回。依って私は「あれは“失望銘柄”」と揶揄している。会社という村の中で御輿に乗っている連中に分かるわけがない。今年はNTTが圏外に去りトヨタが1位になった。一昨年、ネット株としてバブったものだけに今後は危険だ。
- * 2位以下は次の通り。武田薬品工業、ホンダ、信越化学工業、ローム、キヤノン、NTTドコモ、ソニー、セコム、京セラ。の武田は薬品のトップランナーとしてピークを打っている。のHondaは典型的な円安銘柄。ここに顔を出したということは「売り？」の信越。ここだけは例外、本当の有望銘柄ではないか。
- * 日本経済は在庫循環からみればボトムは過ぎ、回復に向かっている。が、供給量に比べて出荷が極めて弱い。過剰を改善するため設備の焼却廃棄をどんどんやる必要があるのではないか。それなのに日本の場合、需要に目がいつている。財政を刺激し、金融緩和をやれば景気や株価が簡単に回復すると思っている。問題は造り過ぎなのだ。
- * 今年は午年。過去7回の「午年」は年央でガタッと崩れている。私独自の暦では2001年は昭和6年に当たる。9月18日に満州事変が勃発、日米欧の株が大暴落した。そしてその翌年、5.15事件が起こった。現実の暦でも、昨年、9.11テロが起き、日米欧の株価が暴落した。いったん持ち直しはしたが、今年の5、6月頃、何かが起こる！
- * 日本の銀行が未だに不振から立ち直れない、それが不況の元凶だ。銀行という動脈瘤が血液の流れを止めているのだ。この瘤を薬品で溶かそうとしているがダメ。手術をする、つまり銀行を潰さないと景気は絶対回復しないと私は思う。銀行が潰れたらどうなるか。そうなれば、代わるべき新しい“金融システム”がどんどん出てくる！
- * このデフレを終わらす条件。物価の下落。特に地価がピークの10分の1になること。東京の都心はその水準まで来たが、その他、商業地、住宅地は、まだほど遠い。賃金を米国並み(現在は倍)にすること。インフラコストを下げる。電力代は米国の倍、ブラジルの5倍。それが現在の半分になれば東電、関電はどうなるのか？
- * 為替も200円まで円安にならないと…。私の予測では今年のターゲットは145円、来年は160円、再来年180円~200円。その意味ではデフレの流れが変わるのは3年先。ただ、この3月~4月にかけてペイオフが絡むので、為替は異常な動きを示すだろう。銀行の期末資金対策で、外国株、外債売却の円転が活発に行われるからだ。
- * 「債券」は難しい局面に来た。金利が世界的に上がりつつあるからだ。日本国債はいつ暴落してもおかしくない、要注意だ。買うとすれば5年の短期もの。30年債は個人が扱うべきではない。ゴールドは世界的不安で高騰しているが、私は強気になれない。ドル安にならないと妙味がないからだ。戦争が起きた場合、やはり石油だろう。
- * 商工ファンド…株価が落ちているのは、ヘッジファンドの玩具になったからだ。銀行株が売られた時、一緒に売られたのだ。今、それが買い戻しに入っており、次第に上がる。銀行がこんな状態だから業績的には問題ない。が、ポンポン増やすべき株でもない。全体の中でどれだけ持つかが大切。その意味では10%台以内が適当だろう。
- * 息の長かった「米国経済の繁栄」は冷戦終結後の“平和の配当”によるもの。が、9.11テロでそれが頓

挫、軍事費がどんどん膨らんでいく。バターから大砲への転換だ。経済にとって短期的には良いが、長期的には危険きわまりない。「経済は底を打った！」が大勢を占めているが、私は懐疑的だ。米国も設備過剰が背後に隠れているからだ。